○景観を探る 2.「千葉県野鳥図鑑−水鳥編−」

2011 年 3 月 21 日（月）

講師：桑原和之（千葉県立中央博物館）

於：千葉県立中央博物館　講堂　時間：13:00～14:00

みなさんの身近な環境では、多くの野鳥が生活しています。千葉県は利根川、太平洋、東京湾に囲まれ水辺の環境が多様です。九十九里浜や印旛沼などで越冬するカモ類、砂浜や干潟に渡ってくるシギ・チドリ類、銚子市などに飛来するカモメやアジサシ類などの水鳥をみなさんは見たことがあると思います。見たことはあるけれども、何という鳥なのかはわからなかったのではないでしょうか？今回の講座では、春の展示「千葉県野鳥図鑑ー水鳥編ー」の中で紹介している野鳥たちや彼らの生息している景観なども紹介します。

現在までに千葉県で確認されている野鳥は、約 400 種です。鳥たちを生活の違いなどから、陸鳥と水鳥に大きく分けることができます。約 400 種の約半分の 200 種が、水辺で生活する水鳥と考えることが出来ます。今回の展示ではその半分の約 100 種を標本や写真、カービングを使い展示しています。春の展示「千葉県野鳥図鑑−水鳥編−」では、1.海辺の野鳥、2.カモの仲間、3.干潟のシギ、4.チドリたち、5.水田のシギ、6.サギの仲間を紹介し、最後に、生息数が減少してしまった種について紹介いたします。さらにケースの中でトピックス的な水鳥たちについて扱います。

展示では鳥たちの説明はなるべく少なくしました。本来ならば最初に、体や羽根につけられている細かい名称を紹介しなければなりません。この展示では、図鑑で使われているような専門用語をなるべく使わずに水鳥たちを紹介します。なお、ラベルやパネルの説明には、種ごとに渡りの区分を表示してあります。本展示では、渡りの区分を便宜的に留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥の 4 つに大別しました。生息数に関して明らかな増減がある種については、その動向も記述いたしました。

講座の後、展示では、実際千葉県で生活している水鳥たちをご覧ください。今回は、よく知られていて身近な水鳥を中心に展示しています。「見たことはあるけれども、何という鳥なのかはわからなかった」鳥たちのうち何種かは、この展示をご覧になってわかるのではないでしょうか？